■那波祐生　　豪商。新技術導入で家業を盛り返すと，日本初の民営の窮民救済基金{感恩講}を構築し，没後も続いた。
なわゆうじょう
田沼意次老中1772＝　　戦国武将を祖とし京都で豪商となるも大火で財産を失い資金貸し付け先の秋田藩に移住して再び豪商となりながら，商売がうまく行かずに貧しくなっていた那波家の祐之の長子に生まれる。

・・・・・・1781＝ 9歳：

蝦夷初調査・1785＝13歳：この年，佐竹義和が藩主となる。
田沼意次失脚1786＝14歳：

異学の禁・・1790＝18歳：

松平定信引退1793＝21歳：

蝦夷地直轄始1799＝27歳：

ﾚｻﾞﾉﾌ報復・ 1806＝34歳：_家督を継いで，9代三郎右衛門となると，織物技術を身に付けるため，京都に修業に行くなど，

間宮海峡発見1808＝36歳：
_技術の導入革新に努め，

・・・・・・1815＝43歳：この年，佐竹義和が死去し，子の義厚がわずか4つで襲封，

杉田玄白没・1817＝45歳：
水野忠成老中1818＝46歳：
群書類従完結1819＝47歳：*藩の殖産政策で設立されていた絹方の支配人に登用されると，

_家業でも絹織業を興し，酒造を改良するなどして，家業の建て直しに成功，再び屈指の豪商となる。

_その後も，かっての貧しさを忘れずに，倹約に励んで，質素な生活を続け，

また，長じた_藩主義厚が慈悲深いこともあって，
・・・・・・1826＝54歳：
日本外史・・1827＝55歳：*奉行所に年末の挨拶に行った際，町奉行橋本五郎右衛門から，藩主の意向として，凶作・飢饉が続いて増大する窮民を救済するための運用資金調達法を検討して欲しいと頼まれると，献金を募って知行地を取得し，年貢収入の半分を救済に残りを貯蓄に回す方法を考え，
ｼｰﾎﾞﾙﾄ事件・1828＝56歳：_自ら400両を献金した上，有力町人の間を奔走，
ｼｰﾎﾞﾙﾄ追放・1829＝57歳：*72人の賛同を得，一般町民にも加入者が増えて191名の構成員があわせて2000両を越す額を献金して実現，藩から{感恩講}の名を与えられ，毎年，構成員に餅を配ることになった。
富籤流行・・1830＝58歳：_{土崎感恩講}も発足。翌年にかけて，火除地に備蓄米を保存する蔵を建設，
富嶽三十六景1831＝59歳：多くの資材寄付や労力奉仕もあって，予算の半額で完成。
天保大飢饉始1833＝61歳：_まだ資金不足するなか，天保の大飢饉となり，
高島砲術・・1834＝62歳：_藩からの支援も受けて，不眠不休で救済活動，延べ43万人に施米する一方，病人の治療・餓死者の埋葬・孤児の保育等の費用の大半を，私財を投じて賄う。
滑稽+人情本 1835＝63歳：_飢饉もようやく収まると，その間の功績に対し，藩が{感恩講}に限って歩合を廃止することとなり，以後，安定した運営の目途が立つと，報謝のため，山王社に鳥居を奉納，
大塩平八郎乱1837＝65歳：*藩に対して，久保田城下だけでなく，藩領全域に事業を拡大するよう進言してまもなく，没した。
以後，{感恩講}は増殖を続け，明治には18箇所となり，本来の{秋田感恩講}だけでも，明治42年までに，延べ400万人以上を救済する。

「人づくり風土記(秋田)」，「目でみる日本人物百科」，インターネット，